



ブロック別指導医講習会の実施報告！

令和7年1月16日、東京ブロック保健所連携推進会議に合わせて「社会医学系専門医協会指導医講習会（東京ブロック）」が開催されました。

講師・記録：向山 晴子 世田谷保健所

令和7年1月16日（木）16時10分～17時10分、保健所連携推進会議（東京ブロック、今年度は「気候変動の健康影響と公衆衛生」がテーマ）に引き続いて、AP東京八重洲に於いて、ハイブリッド形式で指導医講習会を実施しました（保健所長22名を含む31名）。

企画にあたっては昨年度から再開されている東京プログラム推進委員会や全国保健所長会による地域保健総合推進事業の事業班の取り組み、他ブロックでの開催状況等を参考にさせていただきました。

都においても専門医試験を経て専攻医となる方、専攻医から指導医取得の方など動向も変わってきており、定着・育成の実践、指導医の疑問や迷いへの対応や都の強みである相互連携等に資するようなプログラムにブラッシュアップしていく必要があります。

社会医学系専門医に関する

お知らせ

例年、社会医学系専門医・指導医の更新に係る単位指定調査を4月頃と11月頃に実施していますが、この調査は社会医学系専門医協会の参加団体名で「指導医講習会」や「医療倫理」・「感染対策」・「医療安全」の共通講習を開催する場合、開催日の3ヵ月前までに協会へ提出する必要があるためです。

8月～3月に開催する場合には4月調査の際に回答をいただき、4月～7月に開催するものは11月調査の際にご回答ください。

とりまとめて講習会計画申請書を社会医学系専門医協会へ提出し、委員会での確認・承認手続きを得ています。

詳しくは
社会医学系専門医協会HP
説明会・講習会をご覧ください
<http://shakai-senmon-i.umin.jp/seminar/>

今年度は、(1)今年度実施された保健所長の指導医アンケートの結果の報告 (2)「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」の紹介と活用の勧め(高橋感染症対策課長、向山の二事例から) (3)専門医取得の経験談(現・都保健医療局感染症対策部係長・堀元海先生)の三部構成で実施しました。指導医アンケートの結果では前年度に開催した本指導医講習会でも「コーチングの手法やコンピテンシーがわかりにくい」「日常業務に追われて十分な指導時間が取れない」「経験に応じた指導や、本庁等のOJTとして活用できる範囲が限られており、指導体制に工夫が必要」等の意見が多く、共通した傾向であることもわかります。

なお、今年度より東京都では公衆衛生学会等への公衆衛生医の参加・派遣経費が公費助成されることとなり、このことは大きな前進です。

また、事例集は現場の第一線の実体験から幅広く書かれた事例と新任期だけではなく生涯教育としても心に留めたいコメントで構成されていますが、会場参加者の反応からは認知・活用ともまだまだ余地があることがわかりました。他ブロックにならって、事例集をもとにした小グループの意見交換や係長級医師の連絡会、専攻医カフェなどでの紹介・活用も検討していければと思います。

令和6年度の各ブロックの指導医講習会は、今年度配布されたケーススタディ集を知り、体験することで指導現場の一助となればと開催いたしました。また、1月31日の全国保健所長会研修会にあわせた指導医講習会では田中英夫先生の知見に基づいて「専攻医を成長ループへ導く指導医の心構えやスキル」について分かりやすく解説していただきました。

次年度は、アンケート調査でニーズの高かった「専攻医の指導方法(フィードバック技法やコーチングなど)」を中心に据えつつ、各ブロックで指導医の皆様役に役立つ内容をお届けしていきたいと考えています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

発行責任者：横山勝教(公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長)

専門医試験を経て専門医となられた堀先生は会場参加をして下さり、「所長が参加している会議等に、同席することが勉強になったので、声をかけてほしい」という提案等、貴重なご意見をいただいたのに対し、「専門医の取得に向けた活動も業務の一環であることを他の職種も理解し、所属に関わらず区内の保健事業は一通り見せたり体験させたりしている」という区の取り組みや、「指導医自身も常に背中を見られていることを意識して」等、ロールモデルとしての指導医のあり方に関する意見なども出されてコンパクトながら活発な討論ができました。

